

西播の蝶分布資料(2)

岩村 巖・中谷 貴 寿

I. IWAMURA & T. NAKATANI Some Notes on the Butterfly Fauna of Southwest Hyogo-Pref. (2)

雪彦山(飾磨郡夢前町)の蝶相についてはほぼ解明されていて、現在筆者等によってまとめられており、近く発表できるものと思っている。ここでは紙面の関係上、その中から今まで記録されていないもの、及び分布上興味深い種、数種について報告する。

雪彦山は県下中国山脈の南端に属し、従って比較的寒地系の種をよく残存していると共に、反面モンキアゲハ等暖地系の蝶も入り込んでいて、蝶相は変化に富み、興味深い所である。同山の蝶相について触れた文献は少なく、山本(1954)がその一端を紹介して以来公表されたものはないようで、ようやく最近に至り、槽谷(1960)はじめて総括的な解説を試み、ミヤマチャバネセセリ、シータテハ等を記録すると共に、同山産として70種を挙げている。

尚本文をまとめるに当っては、同じ志を持って調査に当られ、種々御協力頂いた槽谷勝君に深謝します。

ホシチャバネセセリ *Aeromachus inachus* Ménétrières 1 ♂ 5 Sept. 1960 Col. & Poss. T. N

県下では極めて稀で、従来その産地は数カ所しか知られていない。朝来郡析原谷及び小段ヶ嶺湿原には割合産する事が知られている。県下では、その第2化の得られる事を公表したものを知らないが、今回記録したものは時期的にも、またその標本の鮮度からみても、明らかに第2化のものである。僅か1頭なので比較できないが第1化のものより少し小形で後翅裏面の斑紋はより鮮明である。

溪流沿いの水溜りにみられ、7月中旬にも現在までで数頭が採集されているが、極めて稀なようである。

スジグロチャバネセセリ *Thymelicus leoninus* BUTLER

ヘリグロチャバネセセリ *Thymelicus sylvaticus* BREMER

いずれも稀なものであるが、溪流沿いの繁み上に見かける。この両種が産地によっては場所的、時期的にズレを持っているらしいという事が高橋昭(佳香蝶No.39)、田中蕃(同No.43)両氏により述べられているが、雪彦山では棲み分けは認められず、同じ場所で2種共に得られる。ただ発生期は明らかにずれており、ヘリグロの方が

発生が早く、7月中旬には両種共に得られるようになりそして7月下旬～8月上旬になればスジグロだけが見られるようになる。

尚標題には関係ないが、ヘリグロチャバネセセリの産地として美方郡扇ノ山を記録しておく(1♀、1 Aug. 1955 Col. & Poss. T. N)

ミヤマチャバネセセリ *Pelopidas jansonis* BUTLER

県下では極めて稀なように言われているが、筆者の1人、中谷は1955年の夏、扇ノ山及び朝来郡析原で多数採集しており、それらの地に於ては小なくとも夏期には決して稀ではない。しかし雪彦山では意外に少なく、現在まで筆者等の知る限りでは、5月と8月に夫々1頭、計2頭しか得られておらず、極めて稀といわねばならない。今まで得られた2頭は賀野神社前と中腹の溪流沿いである。

ウスバシロチョウ *Parnassius glacialis mikado* BRYK et EISNER

数年前までは同山至る所に多産したものであるが、最近では著しく減少してしまっている。これは新たに植樹された杉の木が大きく成長して環境が全く変化してしまった事と最近の乱獲の為めであろうと思われ、特に中腹辺りのかって多産した場所では、日当りのよい草原上をフワフワと次から次へと飛んできたものなのに、今では背丈以上の杉が繁っており、殆んど本種は見かけられなくなってしまった。現在では賀野神社より下の畑地辺りで多く採集されている。同山産の♀には極めて暗化した個体が多く、sp. *kyotonis*程度のもも少なくない。

モンキアゲハ *Rapilio helenus nicconicolens* BUTLER

本種は播磨地方でも稀なものではなく採集はされている。雪彦山でも比較的多産し、夏期に訪れれば必ず見かけるが、槽谷君によれば、むしろ河原口などの低地帯に多く見かけられるという。

ミヤマカラスアゲハ *Papilio maakii satakei* MATSUMURA 前報(1)でも触れたように、本種は同山に於ては少なくない。夏期には7月下旬～8月下旬にわたって新鮮な個体が得られており、発生回数は年3回と思われる。春期には少なく、5月中旬に筆者の1人、岩村は1♂を採集し、他に1頭目撃したことがあるだけである。

尚同山で前翅表面にミヤマカラスアゲハのような黄色
以下p.173へ

(p.174より続く)

鱗帯を現わしたカラスアゲハの春型 (1♂ 1960.5.13. Col. & Poss. I. I) が得られており、このような個体はあまり見かけないと思うので報告しておく、奄美大島産のカラスアゲハ春型のもでは一般にそのような傾向が見られるが、今回得たものは、それらよりもはるかに強く且つ鮮明で一見ミヤマカラスアゲハと見誤るばかりである。ただその他の特徴によりカラスアゲハである事も疑いはない。このような個体が発見され得るという事はミヤマカラスアゲハとカラスアゲハ間の交雑という事も考えられ興味ある問題である。

エゾスジグロシロチヨウ

Pieris napi japonica SHIRAZU

県下においても、最近各地から採集例が報告されており、決して珍らしいものではないが、雪彦山にも少ないながら産する。今の所夏期に主として採集されているが9月にも得られている。

メスアカミドリシジミ *Chrysozephyrus smaragdinus* MURAYAMA

1935年に山本氏によって同山紅葉橋附近で県下初の1♀が記録されて以来、今日まで全くその状態が明らかでなかったが、20余年経た1960年7月26日に、かつて山本氏の得られたのと同じ場所(紅葉橋は現在なくなっている)滝つぼの近くで、下草に静止中の1♀が偶然升田博雄君によって得られ、現在でもやはり棲息していることが明らかになった。

標本は既に汚損の度が著しく後翅も少し破損しているが現在中谷が所有している。

Zephyrus 類は丁度その発生期が梅雨と一致し、その上普通の採集者には一寸見つかりにくい習性などが原因で、長く得られずにいたものであろう。

スギタニルリシジミ *Celastrina sugitanii* MATSUMURA

溪流に沿って、至る所に多産する。出現期は4月中旬～下旬で、汚損した♀は5月上旬にも得られる。かつて吉阪・中谷(1959)は当地産について裏面が白化する傾向にあると述べているが、その後筆者等は当地産及び全国各地産の多数の標本を集め、比較見討した結果、本州他地方産のものとは全く区別出来ない事を知った。

シータテハ *Polygonia c-album hamigera* BUTLER

県下では朝来郡栃原及び氷ノ山附近に産し、六甲山系からの記録もあるが、いずれの地においても稀なものである。雪彦山では、糟谷君により1958年8月2日に1♂が採集されただけで、その後得られたことはないようである。標本は極めて新鮮な夏型で、現在中谷が所有している。果してこれが当地で発生したものか、偶産種かは明らかでないが、恐らく、僅かながらも発生を続けているものと思われ、将来も必ず得られるに違いない。

文 献

山本広一：“播磨雪彦山の蝶”本誌Vol. 2, No. 4/5 吉阪道雄・中谷貴寿：“県下におけるスギタニルリシジミの一新産地”本誌Vol. 3, No. 5

糟谷 勝：“雪彦山の蝶”西高生物第5号、1960・兵庫県立加古川西高等学校生物部機関誌